

# 四半期報告書

(第39期第3四半期)

自 平成24年7月1日  
至 平成24年9月30日

株式会社 **スタジオアリス**

大阪市北区梅田一丁目8番17号

(E03393)

# 目 次

頁

表 紙

第一部	企業情報 .....	1
第1	企業の概況 .....	1
1	主要な経営指標等の推移 .....	1
2	事業の内容 .....	2
第2	事業の状況 .....	2
1	事業等のリスク .....	2
2	経営上の重要な契約等 .....	2
3	財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	2
第3	提出会社の状況 .....	4
1	株式等の状況 .....	4
(1)	株式の総数等 .....	4
(2)	新株予約権等の状況 .....	4
(3)	行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	4
(4)	ライツプランの内容 .....	4
(5)	発行済株式総数、資本金等の推移 .....	4
(6)	大株主の状況 .....	4
(7)	議決権の状況 .....	5
2	役員の状況 .....	5
第4	経理の状況 .....	6
1	四半期連結財務諸表 .....	7
(1)	四半期連結貸借対照表 .....	7
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
	四半期連結損益計算書 .....	9
	四半期連結包括利益計算書 .....	10
2	その他 .....	15
第二部	提出会社の保証会社等の情報 .....	16

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成24年11月13日
【四半期会計期間】	第39期第3四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社スタジオアリス
【英訳名】	STUDIO ALICE Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川村 廣明
【本店の所在の場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06) 6343-2600
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06) 6343-2600
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期連結 累計期間	第39期 第3四半期連結 累計期間	第38期
会計期間	自平成23年1月1日 至平成23年9月30日	自平成24年1月1日 至平成24年9月30日	自平成23年1月1日 至平成23年12月31日
売上高（千円）	20,713,193	20,762,456	34,107,813
経常利益（千円）	888,633	110,112	5,855,550
四半期（当期）純利益（△は損失）（千円）	△15,307	△350,532	2,680,505
四半期包括利益又は包括利益（千円）	56,371	△280,044	2,801,455
純資産額（千円）	12,393,139	14,031,241	15,138,222
総資産額（千円）	21,023,688	23,205,055	22,980,558
1株当たり四半期（当期）純利益金額（△は損失）（円）	△0.89	△20.40	156.03
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	57.3	58.9	64.2

回次	第38期 第3四半期連結 会計期間	第39期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額（円）	11.54	1.57

- （注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益は記載しておりません。
4. 第38期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、第1四半期連結会計期間において、上海豊匠服飾有限公司を新たに設立し、連結の範囲に含めております。この結果、連結子会社は4社となりました。また、新たに設立した子会社の報告セグメントは「衣装製造卸売事業」であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の復興需要による設備投資の増加や個人消費の回復により、緩やかな持ち直しの動きが見られたものの、長期化する欧州の債務危機や円高などの影響により、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、主力であるこども写真事業において、競合他社と明確な差別化を図り、お客様に選んでいただけるお店になるための取り組みを引き続きおこなってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,762百万円（前年同期比0.2%の増加）、営業利益は108百万円（対前年同期818百万円の利益減少）、経常利益は110百万円（対前年同期778百万円の利益減少）、四半期純損失は350百万円（対前年同期335百万円の損失増加）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (こども写真事業)

こども写真事業は、本格的な七五三シーズンを前に、撮影用こども衣装（和装、洋装）を順次入替、導入を行い、更に、8歳から10歳までのお子様向けの衣装を拡充いたしました。また、「早撮り七五三キャンペーン」、並びに、「七五三お出かけ着物レンタル」の件数獲得を図るため、折込チラシやダイレクトメール等の販売促進活動を行うとともに、10月から始まる「七五三撮影でアリスデビュー」キャンペーン（七五三撮影をされる新規のお客様対象）をアピールするためのCMを全国で放映いたしました。

これらの取り組みにより、フランチャイズ店舗を含む全店の撮影件数は、前年同期比で105.7%となり、開店1年以上経過した既存店の撮影件数は103.1%となりました。

国内の出店状況は、移転2店舗を含み新規出店17店舗、退店1店舗を行い、次世代型等への改装を78店舗実施いたしました。

当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、国内こども写真館422店舗（直営店舗412店・フランチャイズ店舗10店）、ペット写真館1店舗、韓国の子会社におけるこども写真館6店舗、合弁会社における台湾のこども写真館4店舗と中国のこども写真館1店舗を含め、434店舗となっております。

以上の結果、こども写真事業の売上高は20,584百万円（前年同期比2.4%の増加）、セグメント利益は71百万円（対前年同期808百万円の利益減少）となりました。

#### (衣装製造卸売事業)

衣装製造卸売事業は、上海豊匠服飾有限公司において撮影用こども衣装の製造を本格的に開始するとともに、製造原価管理の強化に向けた取り組みを開始いたしました。

以上の結果、衣装製造卸売事業の売上高は1,409百万円（前年同期比24.5%の減少）、セグメント利益は135百万円（対前年同期78百万円の利益減少）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

##### ① 資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比べ224百万円増加し23,205百万円となりました。

流動資産は、法人税等及び配当金の支払い等による現金及び預金の減少などにより、前連結会計年度末と比べ2,272百万円減少の9,654百万円となりました。

固定資産は、改装等による有形固定資産の取得等などにより、前連結会計年度末と比べ2,496百万円増加の13,551百万円となりました。

② 負債の状況

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ1,331百万円増加し9,173百万円となりました。

流動負債は、短期借入金の増加等により、前連結会計年度末と比べ885百万円増加の7,414百万円となりました。

固定負債は、長期借入金の増加、資産除去債務の増加等により、前連結会計年度末と比べ445百万円増加の1,759百万円となりました。

③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ1,106百万円減少し14,031百万円となりました。

これは主に、当第3四半期純損失及び前年度の剰余金の処分（配当金支払い）などによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備の状況

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第3四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は、次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資金額（千円）	資金調達方法	完成又は 取得年月
株式会社JVIS	本社他 (東京都八王子市)	こども写真事業	八王子本社及び工場	1,538,600	自己資金	24年8月

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,888,000
計	30,888,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,185,650	17,185,650	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	17,185,650	17,185,650	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日 ～平成24年9月30日	—	17,185,650	—	1,885,950	—	2,055,449

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 6,200	—	単元株式数 100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 17,161,600	171,616	同上
単元未満株式	普通株式 17,850	—	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	17,185,650	—	—
総株主の議決権	—	171,616	—

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
㈱スタジオアリス	大阪市北区梅田 1-8-17	6,200	—	6,200	0.04
計	—	6,200	—	6,200	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,897,707	4,879,100
受取手形及び売掛金	※ 770,186	※ 1,054,401
たな卸資産	789,762	853,783
その他	1,515,173	2,907,977
貸倒引当金	△46,550	△41,230
流動資産合計	11,926,279	9,654,033
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,808,140	5,227,210
その他（純額）	2,538,554	3,417,606
有形固定資産合計	6,346,695	8,644,817
無形固定資産		
	540,712	626,807
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,831,164	2,912,207
その他	1,477,942	1,507,525
貸倒引当金	△142,235	△140,335
投資その他の資産合計	4,166,871	4,279,397
固定資産合計	11,054,279	13,551,022
資産合計	22,980,558	23,205,055
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	323,779	257,040
短期借入金	1,350,000	2,150,000
1年内返済予定の長期借入金	73,332	475,003
未払法人税等	1,195,585	86,877
関係会社整理損失引当金	181,000	24,926
その他	3,404,801	4,420,637
流動負債合計	6,528,498	7,414,485
固定負債		
長期借入金	36,670	320,000
退職給付引当金	410,543	454,488
資産除去債務	385,605	413,971
その他	481,018	570,868
固定負債合計	1,313,837	1,759,328
負債合計	7,842,335	9,173,813

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,885,950	1,885,950
資本剰余金	2,055,449	2,055,449
利益剰余金	10,924,541	9,800,936
自己株式	△9,222	△9,222
株主資本合計	14,856,717	13,733,112
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△99,137	△66,239
その他の包括利益累計額合計	△99,137	△66,239
少数株主持分	380,642	364,368
純資産合計	15,138,222	14,031,241
負債純資産合計	22,980,558	23,205,055

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	※ 20,713,193	※ 20,762,456
売上原価	15,134,625	15,765,893
売上総利益	5,578,567	4,996,563
販売費及び一般管理費	4,650,854	4,887,686
営業利益	927,712	108,876
営業外収益		
受取利息	2,583	2,594
受取家賃	23,892	18,848
雑収入	36,690	21,370
営業外収益合計	63,166	42,813
営業外費用		
支払利息	30,204	26,082
店舗解約損	46,190	—
為替差損	11,374	11,088
雑損失	14,475	4,405
営業外費用合計	102,245	41,577
経常利益	888,633	110,112
特別利益		
固定資産売却益	10,490	—
負ののれん発生益	—	3,262
特別利益合計	10,490	3,262
特別損失		
固定資産売却損	39,652	24,916
固定資産廃棄損	157,351	178,742
減損損失	36,538	161,370
ゴルフ会員権評価損	—	3,285
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	249,231	—
災害による損失	65,141	—
特別損失合計	547,915	368,314
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	351,209	△254,939
法人税、住民税及び事業税	242,233	390,929
法人税等調整額	44,183	△328,722
法人税等合計	286,417	62,206
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	64,792	△317,145
少数株主利益	80,099	33,386
四半期純損失(△)	△15,307	△350,532

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 (△)	64,792	△317,145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	169	—
為替換算調整勘定	△8,589	37,101
その他の包括利益合計	△8,420	37,101
四半期包括利益	56,371	△280,044
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△22,767	△317,635
少数株主に係る四半期包括利益	79,139	37,590

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成24年1月1日  
至 平成24年9月30日)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、上海豊匠服飾有限公司を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成24年1月1日  
至 平成24年9月30日)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、第2四半期連結会計期間より、法人税法の改正に伴い、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成24年1月1日  
至 平成24年9月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当四半期連結会計期間末の期末日満期手形は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	1,445千円	受取手形	1,640千円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 前第3四半期連結累計期間（自平成23年1月1日 至平成23年9月30日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年9月30日）

当社グループのこども写真事業では、主として第4四半期の撮影機会（七五三等）が多いため、通常、第4四半期連結会計期間の売上高は他の四半期連結会計期間の売上高と比べ、著しく高くなっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
減価償却費	1,868,223千円	1,878,528千円
のれんの償却額	18,570	11,427

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年1月1日 至平成23年9月30日）

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月30日 定時株主総会	普通株式	429,485	25	平成22年12月31日	平成23年3月31日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年9月30日）

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月29日 定時株主総会	普通株式	773,072	45	平成23年12月31日	平成24年3月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年1月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	こども写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,102,200	610,992	20,713,193	—	20,713,193
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	1,255,787	1,255,787	△1,255,787	—
計	20,102,200	1,866,780	21,968,980	△1,255,787	20,713,193
セグメント利益	879,921	214,101	1,094,023	△166,310	927,712

(注) 1. セグメント利益調整額△166,310千円には、セグメント間取引に関わる調整額11,873千円、固定資産の調整額等△16,704千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△161,479千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	こども写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,584,641	177,814	20,762,456	—	20,762,456
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	157	1,231,870	1,232,027	△1,232,027	—
計	20,584,798	1,409,685	21,994,484	△1,232,027	20,762,456
セグメント利益	71,550	135,735	207,285	△98,409	108,876

(注) 1. セグメント利益調整額△98,409千円には、固定資産の調整額等40,617千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△139,027千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

「こども写真事業」セグメントにおいて、工場及び店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては161,370千円であります。



(のれんの金額の重要な変動)  
該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額	0円89銭	20円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	15,307	350,532
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	15,307	350,532
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,179	17,179

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月6日

株式会社スタジオアリス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西村 猛 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤川 賢 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアリスの平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スタジオアリス及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。